

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



一番茶後の防除を徹底しましょう

茶指導販売課 菊川 響



気温が上昇する5月は、一番茶の摘採・摘採後の防除の時期です。気象状況やほ場の状態をこまめに確認し、摘採期や防除適期などを逃さないようにすることが大切です。

一番茶の摘採

摘採作業は、収量と品質に直接影響するため、最も注意が必要です。摘採時期が遅くなるほど収量は増加しますが、アミノ酸やカテキンなどの主成分量は減少していきまます。良質を保ちながら収量を確保するため、新芽の伸長や芽伸びの状態から摘採期を判断することが大切です。

※事故防止のため、摘採作業前に機械の点検などを行いましょう。

夏肥の施肥

一番茶と二番茶摘採後の2回に分け、年間の窒素施用量の20%分にあたる量をそれぞれ施用します。肥効を高めるため、幅広く均一に施して土とよく混和しましょう。

一番茶後は化成肥料などの速効性肥料、二番茶後は有機質肥料を中心に施用します。窒素成分を施すだけでなく、土壌の物理性や生物性などを高めることで収量と品質向上に繋がります。

病害虫の防除

近年、管内の平均気温は上昇傾向にあります。例年よりも病害虫の発生密度が高くなる恐れがあるため注意が必要です。摘採期を考慮し、各地区の防除規制に従って防除を行います。

●5月上旬～下旬

チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、カンザワハダニなどの防除時期になります。防除効果を高めるには、株内への丁寧な薬剤散布を行うことが大切です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同系統の薬剤の使用は控えましょう。